

③Int. Cl.¹ 国別記号 ④日本分類
 C 07 D 471/04 16 E 612
 A 61 K 31/505 A B F 16 E 623
 // ADZ 30 G 133.42
 (C 07 D 471/04 30 H 23
 C 07 D 221/00 30 H 612
 C 07 D 239/00)

⑤内整理番号 ⑥公開 昭和54年(1979)11月10日
 6736-4C

⑦発明の数 1
 審査請求 未請求

(全10頁)

⑧窒素橋頭を有する化合物の新規な製法

⑨特 願 昭53-49383

⑩出 願 昭53(1978)4月27日

⑪発明者 イシュトヴァーン・ヘルメツ
 ハンガリー國1056ブタベスト
 モルナール・ウツツア53
 ゾルターン・メーサーロシュ
 ハンガリー國1113ブタベスト
 チエドネキ・ウツツア6
 同

⑫発明者 アーグネシュ・ホルヴァート

ハンガリー國1151ブタベスト
 モルジヤ・ウツツア4

⑬出願人 キノイン・ジョージセル・エー
 シュ・ヴェジエーセティ・テル
 メーケク・ジヤーラ・エルテー
 ハンガリー國ブタベストワト
 ワツツア1-5

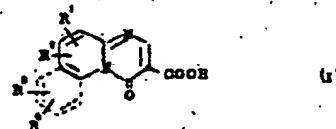
⑭代理 人 弁理士 松井政広 外2名
 最終頁に続く

4.発明の名稱

窒素橋頭を有する化合物の新規な製法

2.特許請求の範囲

1.窒素橋頭を有し、一般式(I)



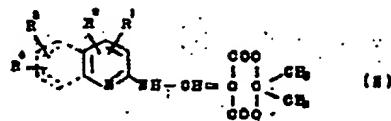
で表わされ、式中、

Rが水素、ヒドロキシルの置換基を有してもよい
 異常原子数1~10のアルキル、異常原子数
 2~13のアルキル、または異常原子数3
 ~7のシクロアルキル基であり、
 Rが水素、ヘロゲン、異常原子数1~6のアル
 キル、異常原子数1~6のアルコキシ、異常
 原子数3~6のアルケニルオキシ、異常原子
 数2~6のアルキニルオキシ、異常原子数7

~13のアルコキシ、異常原子数1~6の
 アルキルオキシ、異常原子数1~6のアルコ
 シカルボニル、シアノ、異常原子数1~6の
 アシルオキシ、トリフルオロメチル、エトロ、
 またはヒドロキシル基であり、
 Rが水素、ヘロゲン、または異常原子数1~6
 のアルキル基であり、

本題は、あつてもよい-(OS=OS)-基であつて、
 かつ置換基RとR'を有してもよく、そ
 のRとR'は同一でも異別でもよく、水素、ヘロ
 ゲン、異常原子数1~6のアルキル、異常原子
 数1~6のアルコキシ、異常原子数2~13の
 アルコキシ、異常原子数1~6のアルキルオ
 キシ、異常原子数1~6のアルキルスルフィニル、
 异常原子数1~6のアルキルスルホニル、異常
 原子数1~6のアルコキシカルボニルであり、
 RとR'がいつしよになつて2個の隣接する異常
 原子に結合する異常原子数1~6のアルキレン
 ジオキシ基を形成してもよい化合物およびRと
 またはR'と共に形成されるその他の基である。

て、一般式(I)



て表わされ、式中、 α 、 β 、 γ 、 δ 、 ϵ 、 ζ 、 η 、 ν 、 ω 、 ν 、 ζ 、 η が上に定義された通りであるイソブロピリデン-2-ヘキリールアミノメチレンマグナートを酸性混合物の存在下で酸化させ、得られる反応混合物を一般式(II)

R-O-R

(II)

て表わされ、式中の α が上に定義されたのと同じ意味をもつアルコールで分解し、所取をらは得られる一般式(II)の化合物を一般式(II)の化合物であるつて、式中 α が臭なつた意味をもつ他の化合物を酸化させ、 α より β をしくは、得られる一般式(II)の化合物を酸または塩基と共に形成されたその他の酸化させ、 α より β をしくは、一般式(II)の化合物をその極から遮離させることを

かし方法

2.特許請求の範囲オノ項の方法であつて、出发化合物として一般式(II)の化合物であつて、式中 α が水素、ヘロゲン、ヒドロキシル、炭素原子数1～6のアルキル、炭素原子数1～6のアルコキシ、炭素原子数2～6のアルケニルオキシ、炭素原子数2～6のアルキニルオキシ、炭素原子数1～6のアルキルチオ、炭素原子数1～6のアルコキシカルボニル、トリフルオロメチル基であり。

3.が水素、ヘロゲン、炭素原子数1～6のアルコキシ基であり、所取をらはつてもよい(10～60)、一基であるつて、かつ酸性基 α より β を有してもよく、その α と β は同一でも異別でもよく、本実験、炭素原子数1～6のアルコキシ、炭素原子数1～6のアルキルチオ、炭素原子数1～6のアルキルスルフィニル、炭素原子数1～6のアルキルスルホニル基であり、 α と β がいつしよにをつて2個の酸基する炭素原子に結合するメテレンジオキシ基を

形成してもよし

化合物を使用する方法。

3.特許請求の範囲オノ項より β のいづれかの方法であつて、熱源を50ないし200℃、好ましくは90ないし150℃の温度で行なうこととする方法。

4.特許請求の範囲オノ項より β のいづれかの方法であつて、該反応混合物を分解するために水を使用する方法。

5.特許請求の範囲オノ項より β のいづれかの方法であつて、該反応混合物を分解するために一般式(II)のアルコールであつて、 α がヒドロキシルの置換基を有してもよい炭素原子数1～10のアルキル、炭素原子数2～13のアルキル、炭素原子数3～9のシクロアルキル基であるアルコールを使用する方法。

6.特許請求の範囲オノ項より β のいづれかの方法であつて、該反応混合物を分解するためにメタノール、エタノール、エーテル、エーテル、イソブロパノール、エーテル

～6、ベンジルアルコール、またはシクロヘキサンオールを使用する方法。

7.特許請求の範囲オノ項より β のいづれかの方法であつて、得られたる一般式(II)で表わされ、式中 α がヒドロキシルの置換基を有してもよい炭素原子数1～10のアルキル、炭素原子数2～13のアルキル、炭素原子数3～9のシクロアルキル基である化合物を、一般式(II)で表わされ、式中 β が水素である他の化合物へ、所取された塩基、好ましくはより量数の水酸化ナトリウム水溶液で行なう加水分解とその他の酸性化によつて酸化することを含む方法。

8.特許請求の範囲オノ項より β のいづれかの方法であつて、一般式(II)で表わされ、式中 α が水素の化合物を、一般式(II)で表わされ、式中 α がヒドロキシルの置換基を有してもよい炭素原子数1～10のアルキル、炭素原子数2～13のアルキル、炭素原子数3～10のシクロアルキル基である他の化合物へ、一般式(II)で表わされ、式中 β が上記と同じ意味であるア